

令和3年12月分の給与に添えてメッセージ送ります。

今回は、利用者様の土居瑞様が書かれた冊子の一部を抜粋させて頂き、皆さんと共有致します。

## 「お蚕さま」

蚕は約6週間で繭になります。口が二つあって、上の口で桑を食べ、下の口から糸を吐きます。その糸は生糸となり、売品となって人の暮らしを豊かにするという、自らの施しを終えると死んでいきます。

この蚕の生き様を思うと、限りない哀れみを感じます。

こんな小さな虫であっても、このような大きな仕事をして死んでいきます。

自分も人のために身を捧げ、施しの心を持たなければと、心新たに高ぶります。

この小さな蚕の生きざまを知ることにより、自らの今後の指標にしたいと心に誓ったことです。

生きとし生きるものの命の尊さは、皆同じ。

どんな小さな虫けらにも生きる権利、生きたい心があるのだ。

人間はもっと「<sup>もうこりた</sup>忘己利他の心」を広げよう。

限りない万物の恩恵を受けながら、感謝と実践を持って応えていこう。

そして、一日一日を大切にしよう。

生ある限り、世界の平和と平穏と人々の幸せを求めて生きようと、心新たにしました。

人はみな、相寄り添って生き抜くことを蚕は教えてくれた。



～土居瑞先生～

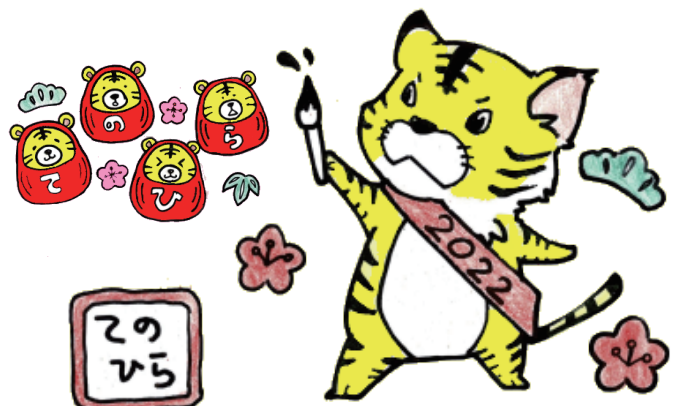
ご利用者様一人ひとりの生活、病歴、歩んでこられた歴史を大切にお伺いしながら、その方々へのナラティブ・アプローチができ、パーソナリティを理解しようとすることで、信頼関係がより一層深まると思っています。

結果、「自分と向き合い」、「出会う人々の心に寄り添う」ということにつながるのだと、信じています。

私は、ナラティブ・ベイスト・メディスン（臨床における物語と対話）に関心を持ち、今学んでいるところです。

今後、「てのひら」でも「ナラティブ看護」について学びを共有したいと思っています。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。



令和4年1月7日 呉 静恵